



第1章 木津川市の現況と環の拠点創出事業

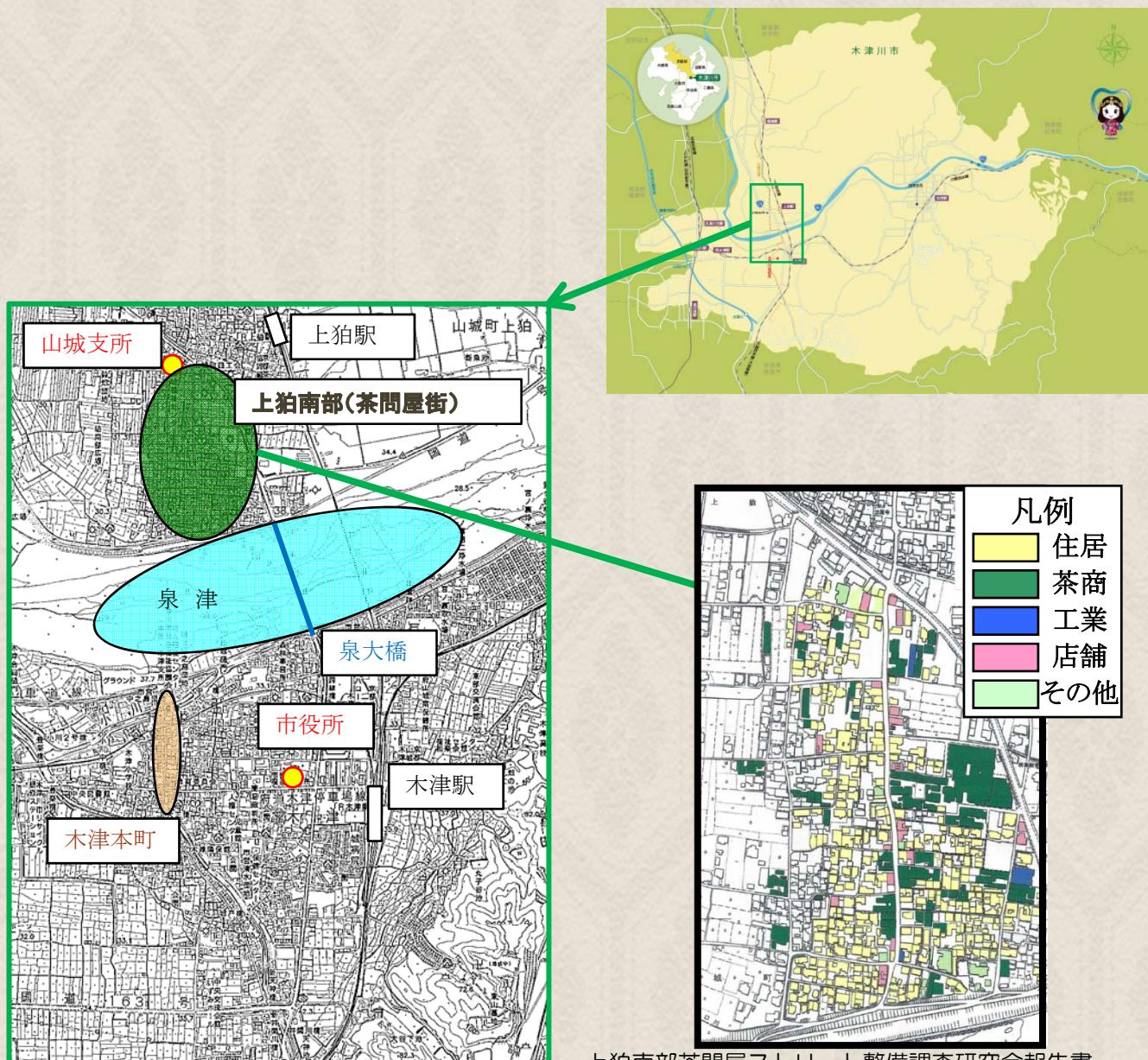


1-1 木津川市の歴史

木津川市は、古都京都と奈良を結ぶ主要な陸路である奈良街道と、大阪・神戸方面への重要な水運であった木津川が交差する位置にあり、古墳時代から流通が盛んで商業が栄えた地域である。泉大橋下流には「泉津」という港が置かれ、平城京造営のための木材を荷揚げするなど、歴史的にも重要な港として栄えていた。

そのため、港の周辺地域も早くから繁栄し、木津川左岸には木津本町地域、右岸には上狛南部地域、そして、木津川上流には加茂船屋地域と歴史的な景観が残された町並みが、現在も残されている。特に、上狛南部地域では、近世中頃から、このような流通網を活かして、綿花を中心とした商業作物の貿易が盛んに営まれた。

明治時代になると、アメリカやイギリスなど海外において、日本茶の人気が高まったことから、綿花と兼業して茶商を営む商人が増え、木津川の水運によって、神戸から海外へも日本茶が輸出されるようになった。その後、多様な繊維の登場により綿花の取引は減少していくが、茶商専業の商人が増え、現在でも30数軒の茶問屋が事業を営まれている。



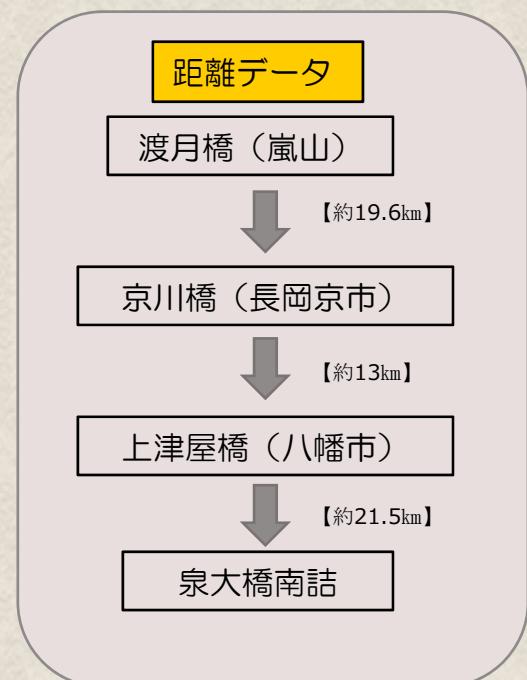
1-2 貴重な地域資源の活用に向けて

前述のとおり上狛南部地域は、明治時代から茶商業が栄え、現在も30数軒の茶問屋が立地している。加えて、山城支所や木津川市山城町商工会等といった公共的施設が集積している。

しかし、茶問屋に代表されるような保全度が高い伝統的な木造建築により歴史的な景観を創り出している一方で、この歴史的な景観の調和が課題となっており、統一感のある景観を保全する取組みをおこなうことが望まれている。

また、少子高齢化や自動車社会の進展により、食料品をはじめとする生活必需品等を販売する商店も少なくなるなど、地域振興のあり方が課題となっている。

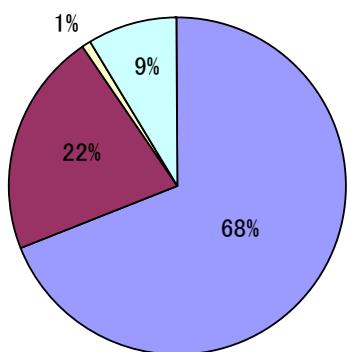
本地域については、このような課題の解決に向け、近年のサイクリングブーム期において、府道京都八幡木津自転車道線の起終点に近く、サイクリング愛好家の利用も多く見込まれることから、茶問屋街などの地域資源を活用した観光と、地域住民とサイクリスト等の観光客との交流を目的とした本地域ならではの新たな事業を創出するために検討した。



自転車アンケートの調査結果（抜粋）

実施日：平成25年3月9日（土）
調査場所：上津屋橋、アスピアやましろ
調査人数：128人

問。木津川市内の自転車道周辺に休憩所があれば利用したいですか。



- 1. ぜひ利用したい
- 2. ときには利用したい
- 3. あまり利用したくない
- 4. 施設の内容による

1-3 環の拠点創出事業コンセプト

上狹南部地域の課題の解決に向けた新たな事業として、「地域との交流の環(わ)」、「健康づくりの環(わ)」、「サイクリングの環(わ)」の3つの環を繋げ、上狹南部地域の茶問屋街において、地域特有の資源とサイクリストなどのニーズを融合させた環の拠点創出事業を検討した。

なお、本事業は、広域のサイクリングコースの拠点としても活用できることから、府内の市町村や、奈良県や滋賀県等の近隣自治体とも連携し、サイクリングルートを設定できる等の期待ができる。

環の拠点創出事業のコンセプト



地域との交流の環(わ)

- ①「本物のお茶」の発信
- ②地域特産物の提供
- ③市内の観光ルート拠点
- ④市外との広域的な観光連携



健康づくりの環(わ)

- ①地域住民の楽しみ
- ②高齢者の交流
- ③各種サークルの紹介
- ④老人クラブ等の活動



サイクリングの環(わ)

- ①サイクリストの誘客
- ②サイクリストの観光
- ③休憩所などの設置
- ④サイクリングの拠点



地域振興・サイクリスト等の誘客に向けて

- ①茶問屋街において、既存の地域資源とニーズの融合を図り、サイクリストにターゲットを絞った拠点を整備
- ②広域のサイクリングルートの拠点として活用
- ③サイクリスト等を誘客するための拠点として活用